
始まりは手紙から

はく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

始まりは手紙から

【Nコード】

N7903K

【作者名】

はく

【あらすじ】

ショートショートです。毎日がハッピーエンド。読む人の心を癒します。

交通事故。

昔の記憶。

私の両親はその時に永遠の別れとなった。

「お父さん、お母さん・・・」

仏壇の遺影に手を合わせる。

「じゃあ、行ってくるね」

それが始まったのは・・・いつだろう？。

私が両親を亡くしてから。

それは手紙。

名前のない差出人不明の手紙。

始めは怖かった。

それが変わったのはいつだろう。

今では私の心の支え。

月に1回、送られて来る手紙。

悲しい時。

落ち込んでいる時。

その私を励ましてくれたのは、名前のない手紙だった。

「部長、会議の資料が完成しました」

「ユウカ君、ご苦労さん。君みたいな部下に恵まれるのは私の幸せだ」

「それではこのまま続けてよろしいですか？」

「ああ、君に任せるよ。頼んだぞ」

「はい、ありがとうございます」

会社勤めになって、3年。

仕事も覚え、今の生活に私は満足している。

残念なのが手紙。

差出人は誰なのだろう。

会いたい。

会ってみたい。

私の心の支えの人。

「そうだ。ユウカ君、お見合いの件はどうするかね？」

「・・・お受けします」

「そうか。助かったよ。先方には伝えておくからな」

「はい」

「今週の日曜日ではどうかね？」

日曜日。

それは私の生まれた日。

誕生日だ。

「大丈夫です」

「よし、後は私に任せてくれ。大船に乗ったつもりでいたまえ」

「はい」

時の流れは速い。

ここは落ち着いた料亭。

そう、お見合いの日だ。

先に到着したのは、私と部長夫婦。

心がざわつく。

どうして、私は今ここにいるのだろう。

心を落ち着かせようと庭の緑を眺める。

時間の流れが遅い。

永遠にこのまま待ち続けるのだろうか。

そう思っている時に襖が開いた。

入って来たのは・・・。

私は一瞬で心を奪われた。

「ユウカさん、やっと、お会い出来ましたね」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

言葉が出ない。

手紙の人だ。

確証はないが、私にはそれがわかった。

時間が止まる。

「あの、・・・・・・・・お手紙ですけど・・・」

「はい、ボクです。あなたに会える日をずっと待っていました」

「お名前をお聞きしてもよろしいですか」

「勿論です。名前のない手紙です。これは『冗談で、アツヤと読んで下さい』

「アツヤさん・・・・・・・・」

「はい」

「私も会いたかったです」

「ボクもです」

「アツヤさん」

「はい？」

「ありがとう」

「「こちらこそ」

「はい」

時間が動き出した。

始まりは手紙から

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7903k/>

始まりは手紙から

2010年10月10日07時00分発行